

スポーツの 効能あれこれ

オリンピックなどの国際競技大会で日本選手が表彰台に上がれば、理屈抜きに感動し、ナショナル・アイデンティティーが高まります。そんな晴れの舞台をめざしてアスリートたちは日々のつらい練習に耐え、また海外の強豪と競い合うことで競技レベルが向上します。選手の活躍には自身の努力はもちろんですが、それとともに環境整備など国や自治体の支援も不可欠です。

“なぜ、このような話を”と思われるかもしれませんが、私は日本陸上競技連盟や大阪陸上競技協会の役員を務めており、スポーツの社会的役割の大きさを実感しています。スポーツの振興には国や自治体・企業・個人のそれぞれに役割があり、そのどれ一つが欠けても成り立ちません。

「事業仕分け」ではスポーツ関連予算も対象となりましたが、トップアスリートのみならず、すべての国民がスポーツに親しむための環境整備は国の大事な役割であるということで、現政権のスポーツ振興への姿勢は積極的です。

国・自治体と同様に、企業もスポーツの振興には重要な役割を担っています。特に、陸上競技をはじめプロ組織のないスポーツでは、「実業団」すなわち企業が専ら「学生」後の選手の受け皿機能を果たしており、その活動の縮小は多くの競技の衰退を招くといっても過言ではありません。企業にとっては、経営環境が厳しさを増し、継続が容易でないことは事実ですが、各種大会への協賛、協力という形での参加を含め、企業がスポーツ支援に取り組むことによって得られるメリットは想像以上に大きいこともまた事実です。

アスリートの活躍が企業のPRになるという直接的なメリットもさることながら、私が強調したいのは、“社会全体で支えるべき”スポーツの支援はCSR活動の一つとして、長期的には企業価値を高める効果があるという点です。加えて、企業内に目を向ければ、組織の一体感の醸成や社員のモラルアップにつながり、ビジネスに



横川 浩 氏

Hiroshi Yokokawa

大阪ガス代表取締役副社長執行役員

良い影響を与えることは多くの企業でも実証済みです。

一方、アスリートは国や周囲の支援に対する感謝の気持ちと、社会的な存在としての自覚を忘れてはならないと思います。単に自己実現のために技術を磨くだけでなく、それをどのような形で社会に還元するかを常に考える必要があるのではないのでしょうか。そして、そうしたアスリートの社会に対する“恩返し”的な活動をバックアップすることも企業の役割の一つです。北京オリンピック・メダリストの朝原宣治は弊社の社員ですが、現在、地域におけるジュニアの指導など、社会的活動に汗を流しています。

スポーツのもたらす効果で忘れてはならないのが地域活性化への影響です。大阪では現在、「大阪マラソン」の開催に向けた準備が進められていますが、これはまさに「スポーツ・ツーリズム」です。地域にエネルギーを与えるイベントとして国内外から多くのランナーに来ていただけるよう、観光やショッピングなど関西の魅力を満喫できる仕掛けも考えていきたいですね。また、報道を通じて関西の魅力が広く発信できることも期待できます。“何万人ものランナーが御堂筋を走る”-想像するだけでも感動的な光景です。

関西はスポーツ関連産業をはじめ、広い意味で健康産業が発展している地域といえます。この特性を生かして、今後、さらにスポーツを活用した地域活性化がはかれることが期待されます。企業もこの機会にいま一度、スポーツ振興に取り組む意義やその効果を見直してみるのはいかがでしょうか。

談